

衆

議院選挙が終わって当面の政治環境が決まった。社民党・共産党・保守新党という小政党が埋没し、自民党・民主党という大政党に議席が集中した。それを見てユアアは遂に日本も米英のような二大政党の時代に入ったと歓迎している。

しかしこれは大変早トチリであって現状はまだ二大政党体制には程遠いものである。理由は二つある。第一は自民・民主両党共にそれぞれ一貫性のある政治理念の下に政治家が結集しているという統一政党ではないことである。

二大政党制

への道

一政党ではな
いことである。
両党共に「エ
ラストヤ」を掲
げたが内容は人気取り的な経
済対策を集めただけで統一政党
としての基本的な政治理念や経
済対策は全く示されていない。自
民党への投票は、小泉は嫌いだ
が自民党が一番無難だろうといっ
グループと、自民党は嫌いだ
が小泉が一番格好が良いとい
うというグループが合体して
いるという精神分裂症の行動の
成果である。民主党への投票
も漠然とした反自民党ムード
であり、言と小沢に共通する政治
理念への支持では全くない。

第二は自民党と民主党の何処が違
うのが全く判らないことである。両
党共に改革、経済再生、平和と



いた「ト」ガンを掲げてはい。しかしその目標が国民生活の将来にどうかかわると考えているのか、目標達成の方途をどう考えているのかが不明なのである。二大政党制という以上両党の政策には有権者が選択を求められる対立軸がなければならない筈である。

私見では日本の二大政党は二つの対立軸を明らかにしなければならぬ。一つは世界における日本という国の在り方である。経済・軍事・文化・外交の各面で競争力を持ち、世界から一目置かれる存在を目指すのか、それとも他国の公正と信義に信頼して日本の安全と生存を保持するという道を選ぶかの選択である。二つ目は大きな政府を望むのか小さな政府を望むのかである。高福祉と政府による手厚い管理を求めらる北欧式の高負担に甘んじなければならぬ。高負担が嫌ならば自己責任原則を徹底させ、競争によって優劣が生ずることを認めねばならない。

こう考えると現在の自民党と民主党は二大政党の要件を満たしていない。日本国民が本当に二大政党制を求めるのなら、どうしても必要なプロセスは、自民党、民主党の双方が分裂し、本当の選択ができるような二大政党に再編されることである。